

利賀っ子だより



R4. 2. 4

○ 利賀っ子の伝統

利賀の子供たちのよさの一つに「下学年を思いやる気持ち」が挙げられると思います。これまでも何回か利賀っ子だよりで紹介してきましたが、こんなところでも下学年のことを考えているのかと感心した場面がありましたので紹介します。

給食の片付けの時間です。利賀小ではソーシャルディスタンスを保つために、「食べ終わった人から順に食器を片付ける。片付けを待つ列が長ならないように、並ぶのは3人まで」という約束があります。

上の学年の子供たちは、片付けのために席を立つ前に必ず、周りを見回します。そして、下の学年の子供が片付けようとしていることが分かったら順番を譲ります。これを目配せで行っているのです。席を立ったのに下級生に譲るために、席に戻る高学年もいるくらいです。

もちろん、教師の指導もありますが、それでもそれを当然のことのようにいつどんな時にでも実践できる子供たち。先輩方から代々受け継いでいる利賀っ子のよさだと感心して見えています。



【給食の片付けの様子】



○ いのちの教育



【妊婦さんの体験】

先日、5・6年生対象に市保健センターの助産師さん、保健師さんによる「いのちの教育」がありました。

南砺市では、毎年、小学校5年生、中学校1年生と2年生を対象に「いのちの教育」を行っています。本校では、隔年で5・6年生が授業を受けています。

妊婦さんの体験をしたり、胎児が成長していく様子の模型や赤ちゃん人形を触ったりしながら命の誕生について学びました。5年生の理科の学習でも「人の誕生」について学んでおりますが、体験を通して学んだことで「自分たちはたくさん

の奇跡で生まれてきている」「自分だけでなく、他の人も奇跡で生まれてきているから他の人の命も大切」「たくさんの人に助けをもらいながらここまで成長してきた」など、命の尊さ、家族の大切さにあらためて気付くことができたようです。



【赤ちゃん人形を抱っこ】

(高田 公美)